

自民党と旧統一教会 関係は究明されないのか

やはり気になる問題である。表題の毎日 24 日「松尾貴史のちょっと違和感」を抜粋して紹介する。

自民党と、宗教団体「世界平和統一家庭連合（旧統一教会）」の「一体ぶり」が、日に日に可視化されている。国会議員の元に送り込まれた旧統一教会の関係者が、ほぼ無償の形で議員事務所を手伝い、彼らはお互いに連絡を取り合い、教会本部に連絡する。もちろん、選挙の時には信者を動員して運動を繰り広げるので、国会議員とは切っても切れない間柄となる。そんな情報が流れている。

また、国会議員が旧統一教会の関係者から講演やスピーチを頼まれ、機関紙に登場したり、祝福のビデオメッセージを送ったりして、多額の報酬をもらうという話もある。これらが事実ならば、旧統一教会の主張する社会のあり方と、自民党が成立を目指す法案や政策に共通点が多く見られるのは、さもありなん。

母親が旧統一教会の信者となり、多額の献金をむしり取られて家庭が崩壊し、その恨みを旧統一教会とのつながりが深い安倍晋三元首相を銃撃することで晴らそうとした、と供述していると報じられている容疑者の蛮行によって、期せずして自民党や、その他の政治家との関係に対して、再びにわかにかが光が当てられるようになった。

有田芳生氏によれば、1990 年代の松本サリン事件や地下鉄サリン事件を引き起こして社会を大混乱に陥れたオウム真理教の後、警察は「次は統一教会問題に着手する」と明言していた。ところがその後、一切、捜査も調査も家宅捜索も行われることはなかった。先日、テレビ朝日「モーニングショー」に出演した有田氏は、その理由を『「政治の力で止められた」と警察幹部が証言している」などと表明した。ようやくこの問題を大手メディアも避けられないと判断したのかと想像していたら、翌日の番組では触れなくなってしまった。「どこか」からのプレッシャーがかかったことは想像に難くないが、あまりにもあからさま過ぎはしないか。

元文部科学事務次官の前川喜平氏は「安倍晋三氏の横死を無駄にしない唯一の道は、統一教会と政治家の癒着した関係を清算することだろう」と喝破している。政権党の政治家として「特定の宗教団体」にお墨付きを与えてしまっていたことは紛れもない事実だ。ここまで「鮮明」に見えてきた自民党と旧統一教会の関係が究明もされない状態で、権力者の横暴から国民を守る憲法をいじる議論が、その自民党の関係者によって進められてしまう状況は、恐怖と絶望以外の何ものでもない。

だんだんと自民党などの国会議員と旧統一教会との「関係」が明らかにされつつある。自民党の岸信夫防衛相(安倍元首相の弟)は 26 日の記者会見で旧統一教会と「付き合い」、選挙手伝いを認めたという(毎日 jp26 日)。これからの展開を注視したい。

(2022 年 7 月 27 日)